

父子手帳の意義とその分類に関する研究

小 崎 恭 弘

はじめに

2003年に「少子化対策推進基本法」と「次世代育成支援対策推進法」が相次いで施行された。特に「次世代育成支援対策推進法」については、2005年4月より各企業や特定事業主としての公務員などに、職場における次世代育成の行動計画を義務付けている。企業も男性も含めた形での、具体的な行動計画を起こそうとしている。母親比べると男性は父親になる準備期間や制度がほとんど用意されておらず、また子どもや子育ての知識やスキル、あるいは子どもというものの理解がまったくできないままに父親になる。そしてその結果育児に対して、無関心・無責任になる。そのような父親の育児参加を出生時より積極的に関心をもち、それらについて知識やスキルを得るようにする試みが行われている。それが「父子手帳」である。

1. 父子手帳の定義

「父子手帳」を定義すれば「父子手帳とは、広義としては妊娠、出産、育児に対する父親の理解を高めるための啓蒙書を含めた書物の総称である。狭義では、父親が妊娠、出産、育児に主体的に取り組み、また実際に何かしらの記録や書き込みを行い、それらを通じてより高い意識で子育てに取り組みができるように父親を支える書物の総称である。」となる。

2. アンケート調査より

父子手帳についての研究・報告はなく、どの自治体において発刊されているのかも把握されていない。インターネットや自治体出版のコミュニティー誌などを通じて、発刊している自治体と連絡を取り、父子手帳を入手した。また同時にその担当各部署に対してアンケートをおこなった。

現在収集できた父子手帳は24冊である。それらについて各項目の分析を行った。その結果以下3点の特徴がみられた。

- ①父親の育児参加の啓発と実践への関わり
- ②育児における人間的成長の強調
- ③夫婦間のパートナーシップの確立

3. 父子手帳が求められる背景

- ①少子化が社会問題として捉えられている

少子高齢化が社会全体の課題として取り上げられ、その原因や対策などとして、男性や父親に対して社会的な関心が高まっている。

- ②男女共同参画社会の萌芽期が訪れている

子育てや出産など、従来は「女性」が行うものや女性の分野とされていたものが、社会構造や価値観、ライフスタイルの変化により、男性とのかかわりや夫婦・パートナーとの関係性の中で語られ、関心が払われるようになってきている。

- ③子育てに対する不安の増大

虐待や子どもを取り巻く様々な事件や事故等、子育て環境や社会状況が、たいへん悪化している。そのような中で子育てについて、今まで以上に注意や関心が払われるようになってきた。

- ④男性の意識の変化

社会状況の多様化や経済状況の変動など、個人のライフスタイルや価値観が社会全体で拡散した。その中で男性の生き方や考え方に、家族とのかかわりや子育てを重視する傾向が現れてきた。

【参考・引用文献】

- (1) 新村出編 「広辞苑第五版」1999 岩波書店
- (2) 汐見稔・長坂典子・山崎喜比古「父子手帖」1994 大月書店
- (3) 父親ハンドブック編集委員会(東京都福祉局子ども家庭部計画課)「父親ハンドブック」1995 東京都